

環境活動レポート

2007

2008年2月1日

(第1版)

株式会社千葉環境ビジネス

社長	環境管理責任者
	



■地球を守る「護美」最前線

株式会社 千葉環境ビジネス 大森 悌次

人間の暮らすところには必ず廃棄物が発生します。ゴミは人の営みの証しと言えるでしょう。温暖化や大気汚染など地球の環境に大きな変化と破壊が進行する中、廃棄物の問題は、現代社会のもっとも深刻な課題のひとつとなりました。かつて廃棄物処理は3Kと呼ばれた業界ですが、今や時代の最先端業種といっても過言ではありません。

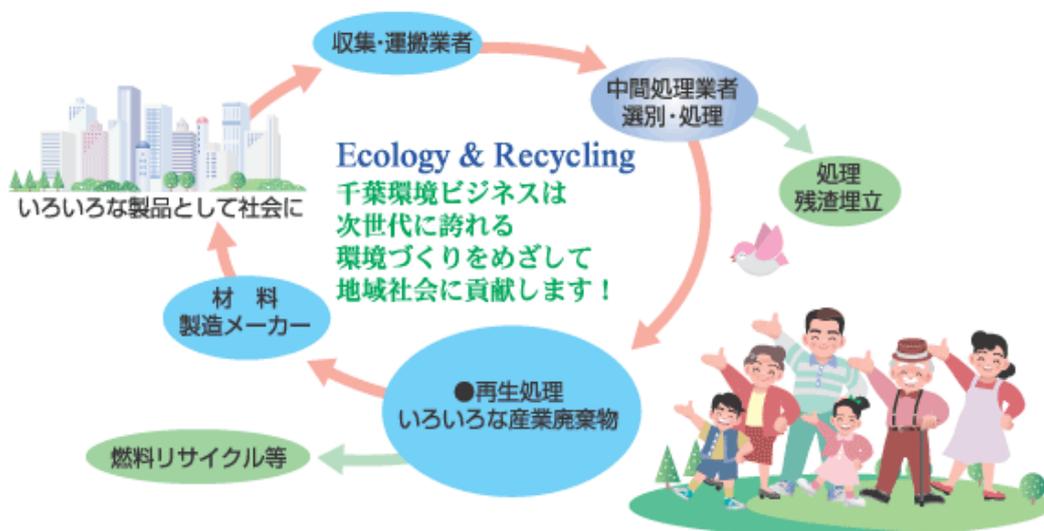
山林への不法投棄や廃油放置などのニュースが流れ、ともすれば「やっかいもの」と思われがちな産業廃棄物ですが、その多くは、分別・破碎・圧縮などの処理により、再利用可能な形に生まれ変わります。

千葉環境ビジネスは創業以来「産業廃棄物」を専門に扱い、適正な処理で地球レベルの環境を守るとともに、資源の節約やリサイクルに貢献してまいりました。

「廃棄物」という言葉には、不要のもの・価値のないものというニュアンスがあります。しかし実はゴミには、価値を創出する無限の可能性が秘められているのです。私どもの仕事は、その可能性を引き出すひとつの重要なステップだと考えています。

昔、ゴミ箱は「護美箱」とも書かれました。これは、ゴミの適正処理で地球の美しい環境を守る千葉環境ビジネスの姿勢には、まさにぴったりの言葉でしょう。

私たちの仕事は最先端の「護美」ですと、今こそ胸を張って申し上げたいと思います。これからも、エコアクション21環境経営システムを活用し、地球と社会に役立つ「護美」の仕事に邁進して行きます。



<環境方針>

環境方針

企業理念

千葉環境ビジネスは「護美」の心をモットーに、地球の美しい環境を守るとともに、資源の節約やリサイクルに貢献しています。

これからも一層、ゴミの価値を創出し、当社の関係する環境関連法等を遵守し、地球温暖化防止と循環型社会に貢献するために、以下の環境目標に取り組めます。

行動指針

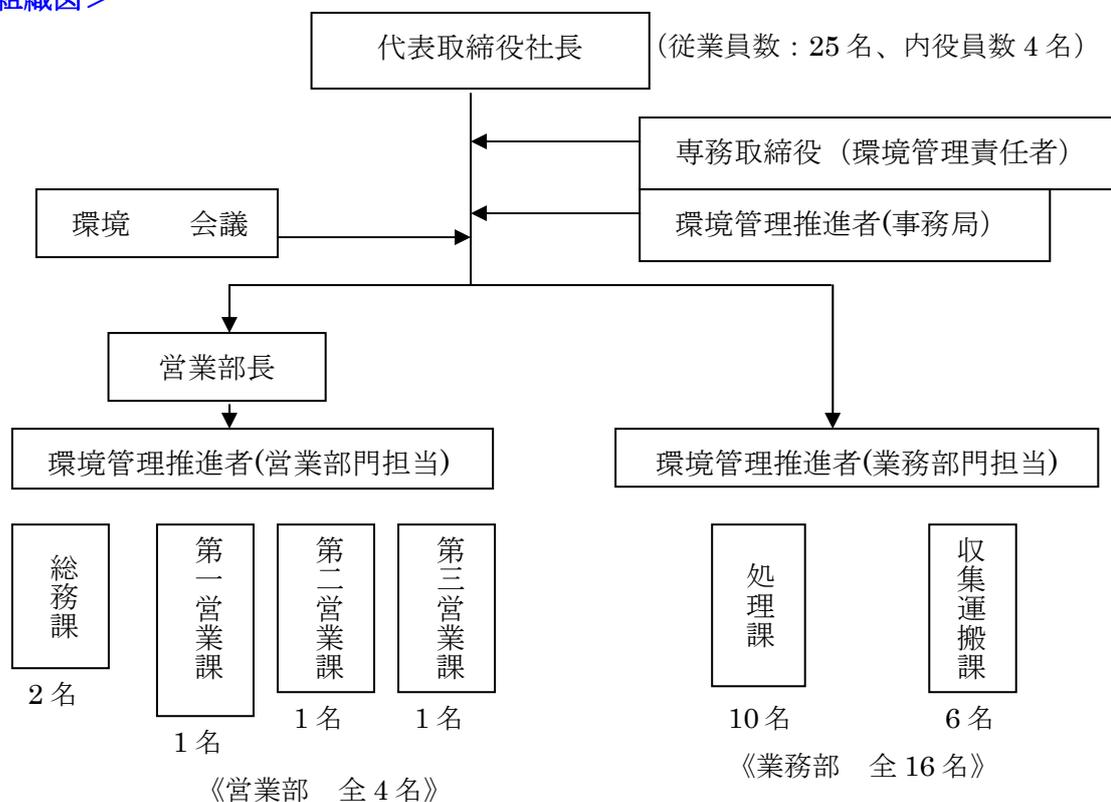
1. 環境関連の法規制、及び当社が同意した業界等の行動規範を遵守します。
2. 排出事業者とともに再資源化方法を改善し、リサイクルを促進します。
3. 選別作業の改善によりリサイクル品質を向上し、廃棄物の削減を計ります。
4. 社有車のエコドライブを実践し、軽油等の使用量を抑制します。
5. 雨水の利用により、水使用量の削減を計ります。
6. 環境経営システムを活用し、優良制評価事業者適合を目指します。
7. 環境方針は、全従業員に周知するとともに、公表します。

2007年8月21日制定

株式会社 千葉環境ビジネス

大森 悌次

<組織図>



<組織の概要>

- ・ 事業所名 株式会社千葉環境ビジネス
- ・ 代表者 大森 悌次
- ・ 設立年月日 平成8年4月18日
- ・ 資本金 1,000万円
- ・ 所在地 本社：千葉市若葉区中野町1691番地7
施設：千葉市若葉区中野町1691番地7
千葉市若葉区中野町1691番地9
- ・ 環境管理責任者 飯島 伸行
- ・ 担当者連絡先（電話・メール） 壁 明彦（043-307-0080、info@chibakankyo.co.jp）
- ・ ホームページのURL <http://www.chibakankyo.co.jp>

<事業の規模>

年 度	2005	2006	2007（推定）
廃棄物処理量（トン）	3,288	3,740	4,000
売上高（百万円）	431	455	500
従業員	25	25	25
延べ床面積（平方メートル）	2500 m ²	2500 m ²	2500 m ²
用途地域	市街化調整区域		

<事業計画の概要>

千葉県、千葉市及び関東近郊の産業廃棄物の収集・運搬と、再資源化のための中間処理を
生業としている。

（主な事業内容）

- ・ 産業廃棄物中間処理業
- ・ 産業廃棄物収集・運搬業
- ・ 特別管理産業廃棄物収集・運搬業
- ・ 金属くず・古紙及びプラスチック類のリサイクル業
- ・ 鉄鋼及び非鉄金属類の売買業

<環境保全技術に関する資格保有状況>

[1] . 環境保全技術に関する資格取得状況

- ① 収集・運搬に関する資格取得状況
- ・ 運行管理責任者 1 名
 - ・ 大型自動車第 1 種 5 名
 - ・ 大型自動車第 2 種 1 名
 - ・ 小型移動式クレーン 2 名
 - ・ 玉 掛 1 名
- ② 処分施設に関する資格取得状況
- ・ 車両系建設機械（整地） 7 名
 - ・ 車両系建設機械（解体） 1 名
 - ・ フォークリフト技能 3 名
 - ・ 危険物乙種第 4 類 3 名

[2] . 産業廃棄物の処理に係る講習会修了者

- ① 産業廃棄物および特別管理産業廃棄物処分業の許可申請に関する講習
（特別管理産業廃棄物収集・運搬課程）
財団法人 日本産業廃棄物処理振興センター
平成 18 年 3 月 11 日 第 405158062 号 1 名
- ② 産業廃棄物および特別管理産業廃棄物処分業の許可申請に関する講習
（特別管理産業廃棄物処分課程）
財団法人 日本産業廃棄物処理振興センター
平成 18 年 3 月 8 日 第 305152041 号 1 名
平成 18 年 12 月 15 日 第 606131032 号 1 名

< 廃棄物処理施設等の状況 >

[1] . 処分施設

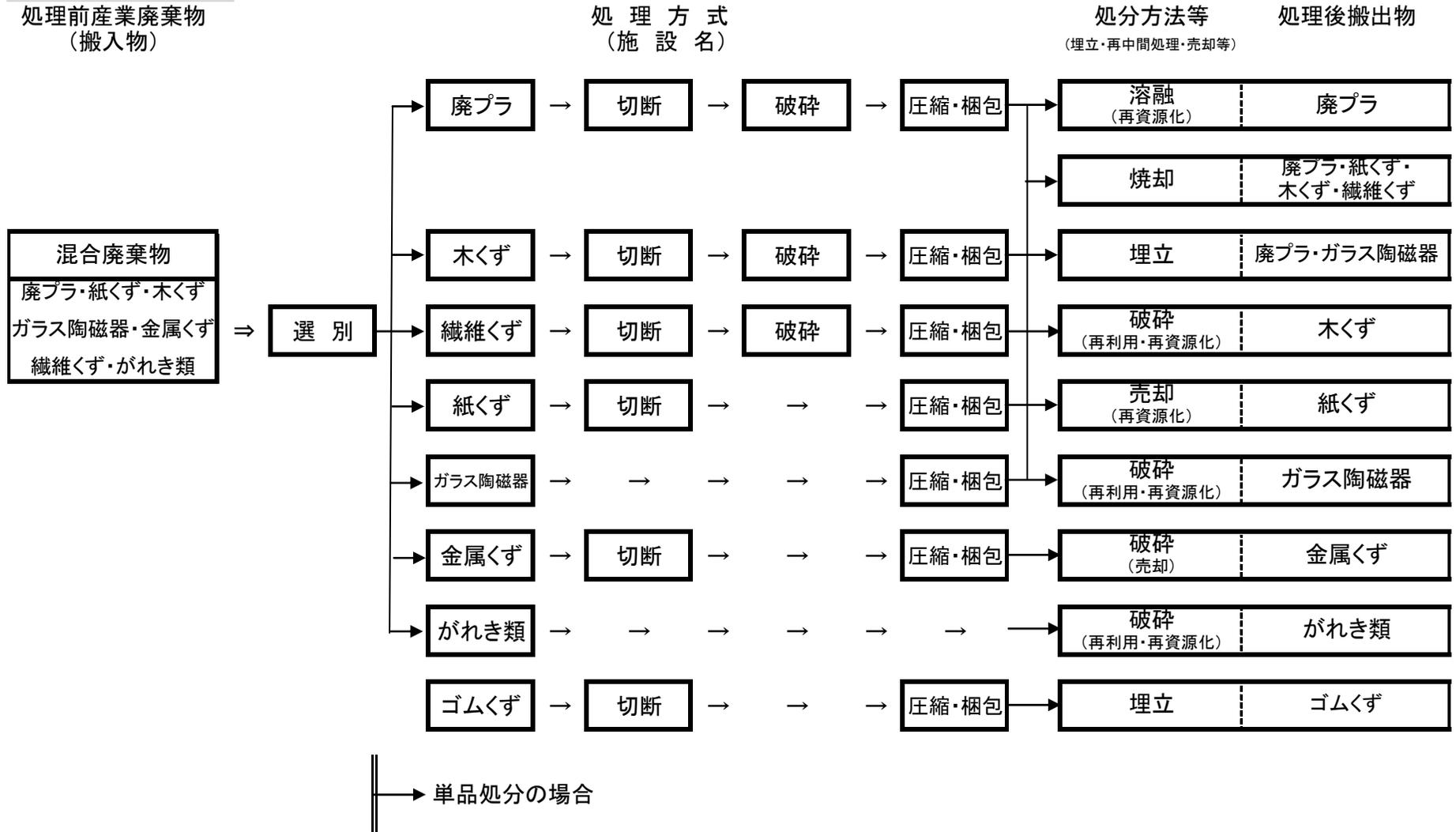
施設の種類 (設置年月日)	取扱品目	処理能力	数量
圧縮・梱包 (H15. 7/4) (H18. 3/20 繊維, ゴム追加)	廃プラスチック類 紙くず 木くず 金属くず ガラスコンクリ陶磁器 繊維くず ゴムくず	5. 34t/日 22. 48t/日 69. 92t/日 22. 48t/日 25. 20t/日 3. 58t/日 2. 96t/日	1
切断施設 (H18. 3/20) (H19. 3/12 紙, 金属, ゴム追加)	廃プラスチック類 木くず 繊維くず 紙くず ゴムくず 金属くず	3. 58t/日 4. 92t/日 3. 58t/日 3. 60t/日 4. 32t/日 3. 20t/日	1
破砕施設 (H19. 3/12)	廃プラスチック類 木くず 繊維くず	2. 48t/日 2. 96t/日 1. 92t/日	1
選別施設① (H18. 3/20)	がれき類	137. 2t/日	2
選別施設② (H19. 3/12)	廃プラスチック類 紙くず 木くず 繊維くず 金属くず ガラスコンクリ陶磁器 がれき類	133. 32t/日	1
施設所在地：千葉市若葉区中野町 1691 番地の 7、1691 番地の 9			

〔2〕. 保管施設

施設の種類	保管面積	保管高さ	保管上限	数量
廃プラスチック類	36.83 m ²	1.40m	40.19 m ³	1
紙くず	36.83 m ²	1.40m	40.19 m ³	1
木くず	36.83 m ²	1.40m	40.19 m ³	1
(処理後) 廃プラスチック類 紙くず、木くず、繊維くず	36.83 m ²	1.40m	40.19 m ³	2
金属くず	47.45 m ²	2.50m	72.85 m ³	1
廃プラスチック類	47.45 m ²	2.50m	72.85 m ³	2
木くず	47.45 m ²	2.50m	72.85 m ³	1
(処理後) 廃プラスチック類、金属くず、 ガラスコンクリ陶磁器くず、がれき類	69.55 m ²	2.50m	106.79 m ³	1
ガラス、コンクリート及び陶磁器くず	63.70 m ²	2.50m	97.80 m ³	1
がれき類	63.70 m ²	2.50m	97.80 m ³	1
がれき類	7.60 m ²	1.40m	10.64 m ³	1
ガラス、コンクリート及び陶磁器くず	7.60 m ²	1.40m	10.64 m ³	1
繊維くず	7.60 m ²	1.40m	10.64 m ³	1
ゴムくず	7.60 m ²	1.40m	10.64 m ³	1
施設所在地：千葉市若葉区中野町 1691 番地の 7、1691 番地の 9				

[3] . 処理のフロー

処理前産業廃棄物
(搬入物)



〔4〕. 収集運搬許可関係

4-1. 産業廃棄物収集運搬登録車両一覧

車両の形式	最大積載量	保有台数
脱着装置付コンテナ専用車	3,750 kg	1
脱着装置付コンテナ専用車	3,800kg	1
脱着装置付コンテナ専用車	3,850kg	3
脱着装置付コンテナ専用車	8,200kg	1
脱着装置付コンテナ専用車	8,000kg	1
キャブオーバ (クレーン付)	2,850kg	1
キャブオーバ	2,000 kg	1
ダンプ	2,000kg	1
塵芥車	2,150kg	2

合計車両台数

12台

4-2. 積替・保管施設

施設の種類	保管面積	保管高さ	保管上限	数量
がれき類	6.84 m ²	1.2m	8.2 m ³	1
廃プラスチック類	6.84 m ²	1.2m	8.2 m ³	1
ガラス, コンクリート及び陶磁器くず	6.84 m ²	1.2m	8.2 m ³	1
金属くず	6.84 m ²	1.2m	8.2 m ³	1
木くず	6.84 m ²	1.2m	8.2 m ³	1
繊維くず	6.84 m ²	1.2m	8.2 m ³	1
汚泥+金属くず (廃乾電池類に限る)	0.196 m ²	0.9m	0.176 m ³	5

[5] 中間処理方法と実績（前年度：2006. 4. 4～2007. 3. 31）

収集・運搬量	126,231 t
中間処理量	3,749 t
合 計	129,980 t

<受託した廃棄物の処理量>

（単位：t）

収集運搬量	混合廃棄物	28,868
	燃殻	82,510
	乾電池（金属＋汚泥）	1,491
	ギロチンダスト	7,490
	廃石綿（非飛散性）	33
	廃酸	108
	廃アルカリ	472
	廃バッテリー	2,308
	木屑	23
	蛍光灯	87
	廃油	2,840
		収集運搬量合計
中間処理量	廃プラスチック（混合）	2,443
	木屑	186
	ガラス・陶磁器	542
	紙くず	79
	金属くず	93
	がれき類	392
	繊維くず	10
	ゴムくず	2
	中間処理合計	3,747
再資源化量	木屑	926
	ガラス・陶磁器（石膏）	200
	紙、木、繊維	1,437
	プラ類	45
	がれき類	311
	紙	36
	金属	131
	再資源化合計	3,086
廃棄物の処理後の	管理型処分場委託量	65
	安定型処分場委託量	588
		中間処理後処分量合計

[6] 廃棄物処理料金

- ・ **処分料金提示方法**
産業廃棄物の処理料金につきましては、種類・性状・量・処理の難度等により変わるため、個別に算出・ご提示させていただきます。
- ・ **処分料金算定方法**
いずれも見積り無料です。
 - ① 弊社営業担当までお問合せください。（TEL：043-307-0080）
 - ② ホームページよりお問合せ
下記の弊社ホームページに“お問い合わせ”のページを用意しております。
- ・ **施設見学のご案内（ご予約方法）**
事前の予約をお願いいたします。
 - ① 弊社営業担当までご連絡ください。（TEL：043-307-0080）
 - ② 下記の弊社ホームページに“見学のご案内”ページがございます。
- ・ **弊社ホームページのご案内** <http://www.chibakankyo.co.jp/>
～是非ご利用くださいませ。

<環境目標と実績(中期)>

環境目標 * 2006 年度実績を基準に 2009 年度末までの目標

区分	項目	中期目標値	2007 年度目標	2008 年度目標	2009 年度目標
二酸化炭素の削減	社有車の軽油使用量の削減	2006 年度実績から 10%削減	①エコドライブ教育 ②アイドリングストップ ③ノウハウ集の作成 ④データ収集 ⑤定期点検の徹底 ⑥エコカー切替検討	①エコドライブ実践 ②アイドリングストップ ③ノウハウドライブ実践 ④エコカーへの切替	①エコドライブ実践 ②アイドリングストップ ③ノウハウドライブ実践 ④エコカーへの切替
	電気使用量の削減	2006 年度実績から 5%削減	①節電告知ラベル貼付 ②グリーン製品・機器への切替 ③エアコン省エネ設定運転 ④パソコン省エネモード設定 ⑤クールビズ・ウォームビズの検討と展開	①節電活動徹底 ②グリーン製品・機器への切替 ③エアコン省エネ設定運転 ④クールビズ・ウォームビズの展開	①節電活動徹底 ②グリーン製品・機器への切替 ③エアコン省エネ設定運転 ④クールビズ・ウォームビズの展開
廃棄物の削減	最終処分量の削減	2006 年度実績から 5%削減	①手分別作業の改善 ②分別作業の標準化 ③処分方法の見直し	①新作業手順の確認と改善	①新作業手順の確認と改善
	リサイクルの拡大	2006 年度実績から 10%拡大	①排出事業者への分別提案 ②PR紙、環境活動レポートの配付 ③リサイクルネットの整備・拡充	①排出事業者への分別提案 ②PR紙、環境活動レポートの配付 ③リサイクルネットの整備・拡充	①排出事業者への分別提案 ②PR紙、環境活動レポートの配付 ③新規獲得顧客の分析と改善
水資源・排水	地下水使用量の削減	現状維持	①浸透マスの整備 ②雨水の利用による地下水の節水 ③洗車水、散水の節約	①浸透マスの整備 ②雨水の利用による地下水の節水 ③洗車水、散水の節約	①浸透マスの整備 ②雨水の利用による地下水の節水 ③洗車水、散水の節約
その他	省資源・省エネ活動の推進	優良性評価事業者適合	①システム構築 ②教育展開 ③運用開始 ④環境活動報告書作成(省資源・省エネ活動結果の公表) ⑤web掲載・公表	①システム改善 ②環境活動報告書作成(省資源・省エネ活動結果の公表) ③web掲載・公表	①優良性評価事業者適合の公表

環境目標の設定根拠(狙い)

- 1) エコアクション2.1導入に伴う、前年度の「環境への負荷状況」を把握した結果、廃棄物の収集運搬車両の軽油使用が、総エネルギー投入量全体の85.5%、温室効果ガス全体では87.1%を占め、燃費向上等の目標を取り上げ、総エネルギー投入量、二酸化炭素排出量の削減に取り組む。
- 2) 主に本社事務所で使用の電気は、総エネルギー投入量全体の3.7%、温室効果ガス全体では2.1%であるが、従業員のエコマインド向上も兼ねて、エアコン・OA機器の省エネ運転使用等に取り組み、電気の使用量の削減を掲げた。
- 3) 中間処理後の最終処分委託量の削減は、処分場の逼迫を加速させ、又、当社の経費の面でも重要であり、最終処分量の削減を目標に掲げた。
- 4) 課題である最終処分量の削減と受入量の向上を兼ね、排出事業者への提案活動等によりリサイクルの推進を計る。
- 5) 地下水の使用は定額払いの現状のため、使用量の把握は計測できない。ただし、洗車水や散水の節約等、水の使用量削減を計る。
- 6) 環境経営システムの構築・運用に関わる取組みが課題であり、又、優良性評価適合への目標もあり、エコアクション2.1環境経営システムを利用して環境保全のための仕組み・体制の整備、環境教育、環境保全活動の推進、情報提供、社会貢献等に取り組む。
- 7) 流量計未設置につき、地下水流量の把握が出来ないため、地下水使用チェックリストを作成の上統計を取ってみる。

環境目標の実績

(活動期間：2007年9月～11月の3ヶ月での実績評価)

区分	項目	中期目標値	2007年度目標 (3ヶ月間)	2007年度実績	結果
二酸化炭素の削減	社有車の軽油使用量の削減	2006年度実績値から15%削減	2006年度比5%削減 (42,840ℓ以下)	20%削減 (34,162ℓ)	○
	電気使用量の削減	2006年度実績値から5%削減	2006年度比5%削減 (7,209kWh以下)	12%増加 (8,202kWh)	×
	温室効果ガスの削減	2006年度実績値から5%削減	2006年度比3%削減 (135,886kg-co2)	3%削減 (131,623kg-co2)	○
廃棄物の削減	最終処分量の削減	2006年度実績値から5%削減	2006年度比5%削減 (154.5ト以下)	24%増加 (202.8ト)	×
	リサイクルの拡大	2006年度実績値から10%拡大	2006年度比10%拡大 (1,027ト以上)	243%増加 (3,525ト)	○
排水・水・資	地下水使用量の削減	現状維持	実績維持活動		△
他のそ	省資源・省エネ活動の推進	優良性評価事業者適合	システム構築・教育・運用展開	計画内完了	○

<主要な環境活動内容とその結果（単年度）>

区分	項目	2007年度の環境活動の取組施策	評価
二酸化炭素の削減	社有車の軽油使用量の削減	①エコドライブ教育 ②アイドリングストップ ③ノウハウ集の作成 ④燃費管理データ収集 ⑤定期点検の徹底 ⑥エコカー切替へ推進	①②③④⑤ 施策で 達成 ⇒○ ⑥は計画中
	電気使用量の削減	①節電告知ラベル貼付 ②グリーン製品・機器への切替 ③エアコン省エネ設定運転 ④パソコン省エネモード設定 ⑤クールビズ・ウォームビズの展開	①③④実施も 未達成 ⇒× ②⑤計画中
廃棄物の削減	最終処分量の削減	①手分別作業の改善 ②分別作業の標準化 ③処分方法の見直し	①道半ばで 未達成 ⇒× ②③計画中
	リサイクルの拡大	①排出事業者への分別提案 ②PR紙、環境活動レポートの配付 ③リサイクルネット整備・拡充	①施策重点に 達成 ⇒○ ②③計画中
排水・水・資	地下水使用量の削減	①浸透マスの整備 ②雨水利用 ③洗車水、散水の節約	①施策実施、他は計画中 ⇒○ ②③計画中
その他	省資源・省エネ活動の推進	①システム構築 ②教育展開 ③運用開始 ④環境活動報告書作成 ⑤web掲載・公表	①②③予定内実施、他は計画中 ⇒○

<未達成項目の今後について（対策）>

- 1) 電気使用量の削減…原因はエアコンであり、ウォームビズ（厚着防寒対応）により、エアコンの冬場の省エネ運転を徹底する。
- 2) 最終処分量の削減…受入量の増加が原因であり、又手分別作業の改善中であるが、標準化を加速し委託処分量を削減する。併せて、リサイクル率の向上等の目標に見直し事も検討する。

<環境活動の取組結果の評価>

環境への取組状況の自己評価を実施した結果、活動に取組む前に比し、環境経営システムの構築・運用により対策実施度合いが96%を指すように評価が向上した。

施策	チェック結果 の点数		満点の場合 の点数		施策実施 割合 (%)	
	活動前 2007年 8月	活動後 2007年 12月	活動前 2007年 8月	活動後 2007年 12月	活動前 2007年 8月	活動後 2007年 12月
1. 事業活動への インプットに関する項目						
1) 省エネルギー, 新エネルギー使用 の拡大	25	35	38	38	66	92
2) 省資源, グリーン購入	29	37	40	40	73	93
3) 節水, 水の効率利用	18	18	24	24	75	75
小計	72	90	102	102	71	88
2. 事業活動からの アウトプットに関する項目						
1) 二酸化炭素の排出抑制, 大気汚染 の防止	26	44	44	44	59	100
2) 受託した産業廃棄物の処理におけ る環境配慮	26	48	48	48	54	100
3) 事務所等における一般廃棄物の排 出抑制, リサイクル, 適正処理	81	104	104	104	78	100
4) 収集・運搬に伴う環境負荷の低減	12	19	24	24	50	79
小計	145	215	220	220	66	98
3. 環境経営システムに 関わる項目						
1) 環境保全のための仕組み・体制の 整備	2	202	208	208	1	97
2) 環境教育, 環境保全活動の推奨等	0	35	38	38	0	92
3) 情報提供, 社会貢献, 地域の環境 保全	0	26	28	28	0	93
4) 環境ビジネス, 技術開発	2	4	4	4	50	100
小計	4	267	278	278	1	96
全項目合計	221	572	600	600	37	95

<環境関連法規への違反、訴訟等の有無>

- (1) 当社が遵守しなければならない環境関連法規等は次の通りである。
廃棄物処理法、道路運送車両法、貨物自動車運送事業法、オフロード法、振動規正法、
特定家庭用機器再商品化法、消防法、労働安全衛生法、騒音規制法、フロン回収・
破壊法、千葉県環境保全条例
- (2) 違反・訴訟等
環境関連法規への違反はありません。なお、関係当局よりの違反等の指摘は、
過去3年間ありません。

<代表者による見直し>

平成19年8月に環境方針を策定、周知教育等を皮切りに、9月より活動開始のキックオフ後、
11月までの3ヶ月間の環境活動を経て、年末年始の多忙期を避け平成20年1月21日に代表者による環境活動全体の見直しを行い、下記の結果となりました。

報告事項

- (1) 環境目標(中期計画)
- (2) 環境活動計画(年度計画)
- (3) 環境関連法規の取りまとめ(環境関係法令等登録表)
- (4) 環境関連法規等の遵守状況のチェック結果(遵法性評価記録)
- (5) 外部からの環境情報の受け付け結果(環境関連苦情・要望等報告書)
～11月30日時点発生せず。
- (6) 環境上の緊急事態の訓練結果(緊急事態訓練報告書)～3月10日実施。
- (7) 緊急事態発生記録(緊急事態処置報告書)～11月30日時点発生せず。
- (8) 環境目標及び環境活動計画の状況と評価結果
(年度計画／進捗管理表)
- (9) 問題点の是正処置及び予防処置の結果(問題点是正処置報告書)

見直し結果からの指示

環境への負荷・取組の把握結果からはEA21取組前に比し、「環境保全のための仕組み・体制の整備」が環境経営システム構築により評点が向上した。又、活動間もないが環境関連の遵法は遵法性評価結果から遵守が確認できた。

外部からの環境に関わる苦情・要望等と緊急事態の発生は無かった。

環境教育については教育訓練計画に沿って体制に応じ予定通り実施された。

今年度の環境目標・活動計画の達成状況と評価結果では、「電気使用量削減、軽油使用量削減、水使用量削減、廃棄物削減、リサイクル量拡大、システムの構築・運用」を目標に掲げ取り組んできたが、活動間もないが3ヶ月間での評価結果では電気の使用量の削減以外は概ね順調に推移している。

冬場のエアコン使用を節制し年度目標を達成する。

以上の状況から今回のレビュー結果から「環境方針・環境目標・環境活動計画・環境経営システム」の変更の必要はない。